

# 平成 29 年度事業報告

自 平成 29 年 4 月 1 日

至 平成 30 年 3 月 31 日

## 1. 会 員

会員状況(平成 30 年 3 月 31 日現在)は、次のとおりである。

会員種別	既往数	入会数	退会数	計
正 会 員	4,686	232	214	4,704
特別会員	1,560	6	12	1,554
名誉会員	35	1	2	34
計	6,281	239	228	6,292

## 2. 会議の開催

(以下、敬称略)

### 1. 第 71 回定時総会

平成 29 年 6 月 16 日、東京都港区「発明会館ホール」で開催、議決権のある当協会の会員総数 6,276 名のうち出席会員数(委任状による者を含む)3,572 名が出席、「平成 28 年度事業報告」、「平成 28 年度決算」を承認し、「理事及び監事の選任」を行い、各候補者全員が選任された。のち、「平成 29 年度事業計画書」、「平成 29 年度収支予算書」及び「平成 29 年度資金調達及び設備投資の見込み」について報告が行われた。

### 2. 理 事 会

(1) 第 198 回を平成 29 年 5 月 12 日、東京都千代田区「尚友倶楽部会議室」で開催、理事 37 名のうち出席者 26 名、監事 2 名のうち出席者 1 名が出席、「平成 28 年度事業報告」、「平成 28 年度決算」、「理事及び監事の選任」、「顧問の委嘱」、「名誉会員の推薦」及び「第 71 回定時総会の招集の決定の件」について原案のとおり議決した。

(2) 第 199 回理事会を平成 29 年 6 月 16 日、東京都港区「発明会館会議室」で開催、理事 37 名のうち出席者 32 名、監事 2 名のうち出席者 2 名が出席、会長、副会長の選定について審議し、会長に谷口博昭、副会長に宮田年耕及び増永修平を選定した。なお選定された谷口博昭は、席上、会長の就任の承諾をした。業務執行理事の選定について審議し、業務執行理事(総務委員長)金井道夫、業務執行理事(経理委員長)小幡学、業務執行理事(事業委員長)岩田裕美、業務執行理事(政策委員長)榊正剛、業務執行理事(組織委員長)柘屋誠、業務執行理事(出版委員長)芝村善治、業務執行理事(広報委員長)深澤淳志について原案のとおり議決した。

(3) 第 200 回理事会を平成 29 年 11 月 22 日、東京都千代田区「日本道路協会会議室」で開催、理事 37 名のうち出席者 23 名、監事 2 名のうち出席者 2 名が出席、「新年交礼会の開催」、「地方会員との意見交換会の開催」、「会員の入会」について原案どおり議決した。

なお、理事会開催の後に沓掛敏夫(国土交通省道路局企画課道路経済調査室長)を講師に「道路懇話会」を開催した。

(4)第 201 回理事会を平成 30 年 3 月 27 日、東京都千代田区「日本道路協会会議室」で開催、理事 37 名のうち出席者 27 名、監事 2 名のうち出席者 2 名が出席、「平成 30 年度事業計画書及び収支予算書並びに資金調達及び設備投資の見込」、「会長奨励賞の表彰」「調査委員会橋梁委員長の交替」及び「会員の入会」について原案どおり議決した。

なお、理事会開催の後に森山誠二(国土交通省道路局環境安全課長)を講師に「道路懇話会」を開催した。

### 3. 名誉会員等の異動

下記の異動があった。

顧問 梶原 拓 (平成 29 年 8 月 29 日死去)

名誉会員 松崎 彬 磨 (平成 29 年 9 月 22 日死去)

名誉会員 菊池 三 男 (平成 29 年 11 月 4 日死去)

### 4. 調査・研究事業

交通工学委員会 地域道路規格小委員会 交通安全小委員会 道路標識WG  橋梁委員会 橋梁総括構造小委員会 英文示方書WG 鋼橋小委員会 コンクリート橋小委員会 下部構造小委員会 耐震設計小委員会 維持管理小委員会	舗装委員会 舗装マネジメント小委員会 環境・再生利用小委員会 舗装性能評価小委員会 舗装設計施工小委員会  道路土工委員会 落石対策検討WG  トンネル委員会 トンネル附属施設小委員会 トンネル設計・施工小委員会  道路震災対策委員会  道路維持修繕委員会
--	---

## 5. 成果の提供・普及事業

### 1. 図 書(38 点・116,900 部)

(1) 道路技術者の一層の利便に資するため、調査委員会等の成果を踏まえ、次のとおり新刊・改訂図書を発行した。また、既刊図書の増刷を行った。

#### 新刊・改訂(10 点・83,800 部)

附属物(標識・照明)点検必携	【新刊】	2,000 部
舗装点検必携	【新刊】	2,000 部
英語版 舗装の維持修繕ガイドブック 2013	【新刊】	500 部
英語版 道路橋示方書 IV下部構造編(2012 年版)	【新刊】	300 部
道路橋示方書・同解説(I 共通編)	【改訂】	15,000 部
道路橋示方書・同解説(II 鋼橋・鋼部材編)	【改訂】	15,000 部
道路橋示方書・同解説(IIIコンクリート橋・コンクリート部材編)	【改訂】	15,000 部
道路橋示方書・同解説(IV下部構造編)	【改訂】	15,000 部
道路橋示方書・同解説(V 耐震設計編)	【改訂】	15,000 部
落石対策便覧	【改訂】	4,000 部

#### 増 刷(28 点 33,100 部)

視覚障害者誘導用ブロック設置指針・同解説		500 部
車両用防護柵標準仕様・同解説		500 部
道路構造令の解説と運用		5,000 部
防護柵の設置基準・同解説		2,000 部
コンクリート道路橋施工便覧		300 部
鋼道路橋塗装・防食便覧資料集		500 部
道路橋補修・補強事例集(2012 年版)		500 部
斜面上の深礎基礎設計施工便覧		300 部
鋼道路橋防食便覧		2,000 部
舗装設計施工指針		1,000 部
舗装施工便覧		2,000 部
舗装設計便覧		2,000 部
舗装調査・試験法便覧		200 部
透水性舗装ガイドブック 2007		200 部
コンクリート舗装に関する技術資料		300 部
舗装の維持修繕ガイドブック 2013		1,000 部
舗装点検必携		2,000 部
共同溝設計指針		300 部
落石対策便覧に関する参考資料		200 部
道路土工要綱		500 部
道路土工―カルバート工指針		2,000 部

道路土工—盛土工指針	1,000部
道路土工—擁壁工指針	2,000部
道路土工構造物技術基準・同解説	5,000部
道路トンネル安全施工技術指針	100部
道路トンネル維持管理便覧(本體工編)	1,000部
道路震災対策便覧(震前対策編)	200部
道路技術基準 温故知新	500部

(2) 図書の販売状況は、以下のとおりである。

(単位:部)

年度	期首在庫	増刷	販売等	期末在庫
28年度	47,349	41,800	44,151	44,998
29年度	44,998	116,900	110,670	51,228

## 2. 月刊誌「道路」の発行

月刊誌「道路」は、道路に関する幅広い情報の提供を心がけ、会員ならびに読者のニーズに応えるべく道路技術や道路行政の最新動向を特集掲載した。また、平成28年度に引き続き、地方創生の核となる「道の駅」の先駆的な取り組み紹介等、情報誌として内容の充実を図り、平成29年4月号から平成30年3月号まで延べ100,800部を発行した。

## 3. 講習会等の開催

### (1) 講演会の開催

平成29年6月16日、東京都港区「発明会館ホール」において総会終了後講演会を開催した。

演題「インフラ事業におけるPPP/PFIと道路政策の今後」

講師 山内 弘隆(一橋大学大学院教授)

(参加者 201名)

### (2) 平成30年度道路関係予算説明会

吉岡 幹夫(国土交通省道路局企画課長)を講師に次のとおり説明会を開催した。

#### 1) 平成30年度道路関係予算概算要求説明会

(平成29年9月12日・東京)

(参加者 159名)

#### 2) 平成30年度道路関係予算説明会

(平成30年2月16日・東京)

(参加者 175名)

### (3) 地区道路講習会

舗装に関する講習会

『舗装点検必携 平成29年版』の発刊に伴い、本書籍の理解と適切な運用を図るため、次のとおり開催した。

(参加者 752名)

開催日	開催場所	参加者	開催日	開催場所	参加者
6月21日	東京	300名	6月23日	大阪	102名
6月30日	札幌	145名	6月4日	福岡	99名
7月11日	名古屋	106名			

#### 道路土工に関する講習会

『道路土工構造物技術基準・同解説』の発刊に伴い、本書籍の理解と適切な運用を図るため、次のとおり開催した。 (参加者 1,137 名)

開催日	開催場所	参加者	開催日	開催場所	参加者
6月27日	東京	255名	6月30日	大阪	190名
7月7日	札幌	96名	7月10日	仙台	156名
7月14日	名古屋	127名	7月19日	新潟	55名
7月21日	福岡	145名	7月25日	広島	113名

#### 道路橋に関する講習会

『道路橋示方書・同解説』の発刊に伴い、本書籍の理解と適切な運用を図るため、次のとおり開催した。 (参加者 3,908 名)

開催日	開催場所	参加者	開催日	開催場所	参加者
11月13日	東京	899名	11月15日	大阪	897名
11月21日	仙台	221名	11月28日	福岡	297名
11月30日	名古屋	433名	12月8日	広島	270名
12月12日	新潟	167名	12月15日	札幌	190名
12月12日	高松	135名	1月31日	東京	399名

#### (4) 「道路政策に関する講演会」の開催

平成 29 年 4 月 28 日、東京で開催した。 (参加者 189 名)

- 1) 演題「最近の道路行政、ITS に関する話題」  
講師 西尾 崇(国土交通省道路局道路交通管理課 ITS 推進室長)
- 2) 演題「自動運転に係る日本自動車工業会の取組について」  
講師 和迩 健二(一般社団法人日本自動車工業会常務理事)

平成 29 年 9 月 27 日、東京で開催した。 (参加者 215 名)

- 1) 演題「道路の老朽化対策の取り組みについて」  
講師 木村 嘉富(国土交通省国土技術政策総合研究所道路構造物研究部長)
- 2) 演題「道路舗装のメンテナンス」  
講師 秋葉 正一(日本大学生産工学部教授)

平成 30 年 1 月 29 日、広島で開催した。 (参加者 242 名)

- 1) 演題「持続可能な地域づくりと道路政策の課題」  
講師 阿部 宏史(岡山大学大学院環境生命科学研究科教授)
- 2) 演題「最近の道路行政の動向について」  
講師 森山 誠二(国土交通省道路局環境安全課長)

平成 30 年 2 月 28 日、東京で開催した。 (参加者 208 名)

- 1) 演題「無電柱化の推進に関する法律と国の取り組み」  
講師 蓮見 有敏(国土交通省道路局交通安全政策分析官)

## 2) 演題「無電柱化推進の道筋」

講師 松原 隆一郎(東京大学大学院総合文化研究科教授)

### 4. 第 32 回日本道路会議の開催

平成 29 年 10 月 31 日、11 月 1 日の 2 日間、東京都千代田区平河町の「都市センターホテル」において第 32 回日本道路会議を開催した。

本会議では、今後の道路施策のあり方や直面する課題に対し、ソフトとハードのバランスのとれた施策が求められる中、AI や ICT、ビッグデータを駆使したストック活用や地方活性化へ向け、「今後の道路政策のあり方についての展望」、「直面する課題に関する先進事例・最新情報の共有と意見交換」、「先進的な取組・研究成果の発表や海外事情等の最新情報の提供」等の基調講演やパネルディスカッション、また、一部の論文発表について集中討議セッションを行った。

初日は、本協会会長の開会挨拶、実行委員長挨拶に続いて、東京大学大学院教授・羽藤英二氏による基調講演「ビッグデータを活用した道路施策のあり方」引き続き羽藤氏を司会者にパネルディスカッション「ビッグデータをいかに活用するか」が開催された。

午後からは、「道路協力団体をはじめとした地域活性団体の取組みの活用化」、「巨大地震への備え～熊本地震から学ぶべきこと～」、「無電柱化推進法を受けた取組」の基調講演・パネルディスカッションを、有識者や行政、関係団体、関連民間企業による議論が行われた。

2 日目の「道の駅等を拠点とした自動運転サービスの実証実験」、「自転車活用推進法を受けた取組」の基調講演・パネルディスカッションでは、前日同様、有識者・行政、関連企業等を交えて議論した。

並行して、「アセットマネジメントに関する国際シンポジウム」や「途上国における道路プロジェクトを通じて道路整備の原点を振り返る」と題したパネルディスカッションは、欧米諸国の有識者、行政担当者からの事例や日本の取組事例を、また、ネパール・シンズリ道路建設事業関係者から、海外プロジェクトならではの魅力を紹介した。

初日・2 日の両日にわたり、口頭発表 444 編、ポスター発表 57 編の論文発表があり、技術的課題の多様化を反映し、産・学・官それぞれの立場から様々な視点に立った広範な内容の発表、活発な質疑応答、意見交換が実施された。また、全部門で集中討議セッションを開催し、参加者を交えた議論や意見交換が活発に行われた。

また、両日ともに「優秀論文賞」「奨励賞」を選定し、表彰式を開催した。

会議の概要は下記のとおりである。

#### 1. 委員会の開催

- ① 実行委員会
- ② 論文・企画委員会

#### 2. 道路会議参加者数 2,277 名

#### 3. 会議

- ① 開会
- ② 各プログラム報告
- ③ 一般論文発表(口頭発表、ポスターセッション)応募論文数・表彰論文数
- ④ 展示ブース

## 5. 道路広報

道路への理解と普及のため、次の道路広報活動を実施した。

### (1) 道路整備に対するニーズの把握と理解の普及に向けた広報啓発活動

- 1) 道路関係資料等の保存・活用システムを構築し、今後必要なデータを適宜利用できる環境整備を前年度に引き続き実施した。
- 2) 会員ならびに道路関係者に対する最新の情報提供を行うため、ホームページの改善を適宜行った。
- 3) 「道路政策の変遷」に関する資料を改訂版として発刊した。

### (2) 国民参加型広報への協力

「道路ふれあい月間」等への協賛を行った。

## 6. 国際協力事業

国際委員会において、PIARC,IRF,REAAA などの国際機関への参画における官民のとりまとめ役として、また道路関連産業や道路技術の海外展開を支援する道路協会の機能強化、協会会員への国際活動成果の還元を運営方針として、以下の事業を実施した。

### 1. 国際会議への派遣など

#### (1) WRA(World Road Association: 通称 PIARC: 世界道路協会)

##### ① 実行委員会・総会等

平成 29 年 10 月 23 日から 26 日にかけてドイツ・ボン市で開催された実行委員会・総会等に、当協会理事・国際委員長の菊川滋ほか関係者が出席し、各国の関係者と情報交換、意見交換を行った。本総会のディベートには国土交通省道路局交通管理課長土井弘次が出席し、「自動運転」をテーマに我が国の自動運転に関する道路管理事例について発表を行った。

##### ② 技術委員会

PIARC 技術委員会は 4 年毎のタームで活動を行っている。平成 28 年に開始した現タームには道路および道路交通に関する 17 の技術委員会等が設置され、我が国からは 14 の委員会等に参画し道路技術に関する情報交換、共同研究等を行っている。

平成 29 年 5 月 29 日から 31 日にかけて、道路の災害マネジメントに関する技術委員会および国際ワークショップが東京で開催され、国内外の技術者や専門家による情報交換、意見交換を行った。

7 月 14 日に技術委員会活動報告会を開催し、活動成果の国内還元という観点などから活動進捗状況について報告があり、国内の道路関係者と意見交換を行った。

10 月 30 日から 11 月 1 日にかけて、アセットマネジメントに関する技術委員会および国際シンポジウムが東京で開催され(なお、本シンポジウムは第 32 回日本道路会議の国際部門として開催された)、国内外の技術者や専門家による情報交換、意見交換を行った。

12 月 4 日から 6 日にかけてイタリア・ローマ市で開催された技術委員会中間会議に菊川滋ほか関係者が参加し、各委員会活動の進捗についての活動報告が行われたほか、次期ターム戦略計画などにつき各国の関係者と意見交換を行った。

##### ③ 第 15 回国際冬期道路会議

平成 30 年 2 月 20 日から 23 日にかけてポーランド・グダンスク市で開催された第 15 回国際冬期道路会議に、当協会長の谷口博昭ほか関係者が出席し、国内外の技術者や専門家と情報交換、意見交

換を行った。

本会議の大臣セッションには国土交通省技監森昌文が出席し、我が国の冬期道路サービスやメンテナンスについて紹介し、各国代表と意見交換を行った。

また会議期間中に開催された道路技術展示会においては、当会が出展企業、団体の取りまとめ役となり国土交通省道路局と連携して官民共同で日本ブースを出展し、我が国の冬期道路政策や道路技術について紹介を行った。

#### ④ PIARC 道路統計プロジェクトの推進

PIARC 道路統計の作成に向けて我が国主導のもと統計データ収集等の活動推進、報告書の作成を行った。

#### ⑤ 本部事務局への技術者派遣

本部事務局の要請に基づき、西日本高速道路株式会社および東日本高速道路株式会社からそれぞれ技術者 1 名を派遣した。

### (2) IRF (International Road Federation: 国際道路連盟)

#### ① IRF 奨学基金への協力および IRF 奨学生の推薦

関係機関からの賛助を得て IRF 奨学基金に協力を行った。

IRF 奨学生を募集し、選考の結果、日本から 1 名を奨学生として IRF へ推薦した。

#### ② IRF フェロー帰国報告会

平成 29 年 6 月 30 日に IRF 奨学生帰国報告会を開催し、IRF 奨学生制度の意義や IRF 活動について情報交換、意見交換を行った。

### (3) REAAA (Road Engineering Association of Asia and Australasia:

アジア・オーストラレーシア道路技術協会)

#### ① 評議員会

平成 29 年 7 月 20 日にフィリピン・マニラで開催された第 107 回評議員会および、同年 11 月 7 日にマレーシア・クアラルンプールで開催された評議員会中間会議に、評議員団体である当協会を代表して REAAA 分科会長の橋場克司ほか関係者が出席し、各国の関係者と情報交換および意見交換を行った。

#### ② 技術小委員会

REAAA 技術小委員会において、道路技術に関する情報交換、共同研究等を行うことを目的として活動を行った。日本が委員長を務める舗装の小委員会においては、舗装に関する技術報告書を発刊した。

技術小委員会の再構築を図るため、関係者らにより意見交換が行われた。

## 2. 海外留学生研究援助

「海外道路研究基金」による援助金支給者について選考を行い 3 名に支給した。

## 3. その他

### ① 第 32 回日本道路会議国際部門

第 32 回日本道路会議において PIARC のアセットマネジメントに関する技術委員会と連携して欧米から専門家を招き、アセットマネジメントに関する国際シンポジウムを開催した。また、ネパール道路建設事業の関係者を招き、途上国における道路建設プロジェクトを通じて道路整備の原点を振り返ることを目的にパネルディスカッションを開催した。



## ② 協力協定に基づく交流活動

インド道路会議との協力協定に基づき、第 78 回インド道路会議年次総会に論文発表者等を派遣した。

## 4. 国際アスファルト舗装会議

ISAP(国際アスファルト舗装学会)のアスファルト舗装と環境に関する技術委員会と当会舗装委員会シンポジウム実行委員会との共同開催により、平成 29 年 11 月 20 日、21 日の 2 日間にわたり、日本道路建設業協会との共催、および日本改質アスファルト協会、日本アスファルト乳剤協会、日本アスファルト協会、日本アスファルト合材協会の後援のもとに東京・芝浦工業大学豊洲キャンパスにおいて「第 4 回アスファルト舗装と環境に関する国際シンポジウム」を開催し、国内外から 147 名の参加者を得て開催された。

## 7. 表彰その他事業

### 1. 道路功労者の表彰

道路整備事業の推進ならびに道路愛護・美化保全等に尽力された団体および個人に対して、各都道府県、政令指定市、国土交通省各地方整備局、北海道開発局、沖縄総合事務局、各高速道路会社、一般社団法人 日本道路建設業協会、一般社団法人 プレストレスト・コンクリート建設業協会の推薦を得て、125 団体ならびに個人 62 名の方々を 8 月 10 日「道の日」に表彰した。

### 2. 会長奨励賞の表彰

自らの創意工夫を加え、その後の業務遂行に多大な成果をあげた者を表彰し、道路技術の進展に寄与することを目的とし、3 件(個人 3 名)を決定し、第 72 回定時総会において表彰することとした。

### 3. 地域活動

#### (1)「道路技術講演会」の開催

一般社団法人 近畿建設協会との共催により、下記のとおり「道路技術講演会」を開催した。

開催日、場所、参加者数：平成 29 年 12 月 18 日、和歌山市、120 名

講演科目：基調講演「道路整備のストック効果について」

講演 1)「橋梁の維持管理における市町村の問題点抽出とその対応方針」

講演 2)「和歌山県の社会基盤整備について」

#### (2)「道路技術勉強会」の開催

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会近畿支部との共催により、下記のとおり「道路技術勉強会」を開催した。

1)開催日、場所、参加者数：平成 29 年 6 月 9 日、大阪市、58 名

講習科目：「交通マネジメントの未来像、これからの道路とカーシェアリングの展開」

「民間事業者から見た現在のカーシェアリングの課題と今後の展開」

2)開催日、場所、参加者数：平成 29 年 6 月 15 日、大阪市、72 名

講習科目：「道路審議会「建議」これからの道路政策」

「道の駅」を拠点とした自動運転実証実験の取組みについて」

3)開催日、場所、参加者数：平成 29 年 11 月 24 日、大阪市、52 名

講習科目：「無電柱化に向けた最近の取組みについて」

「京都市における無電柱化に向けた最近の取組み」

4)開催日、場所、参加者数:平成30年3月2日、大阪市、61名

講習科目:「景観に配慮した道路デザインについて」

「近畿地区における景観に配慮した道路デザインについて」

(3)「地方会員との意見交換会」の開催

地方会員のニーズを把握し、協会活動の充実及び組織基盤の充実に資するため、平成30年1月29日に広島市において中国地方の県・市の地方会員をはじめとする22名の参加により「地方会員との意見交換会」を開催した。

4. 関係機関への協力

(1)内閣府等の主催により実施された平成29年度「春および秋の全国交通安全運動」に協賛

(2)全国道路利用者会議、道路整備促進期成同盟会全国協議会の定時総会、全国大会等の開催への協力